

2. 小出川の水質調査

今回の12月調査は、6月調査と同様に、上流の大黒橋（最上流地点）、一ツ橋（中流域）等を追加して、計8地点の水質と河川環境（12月1日）を調査しました。（午前採水3名、午後パケット3名）

2.1 小出川流域の水質推移

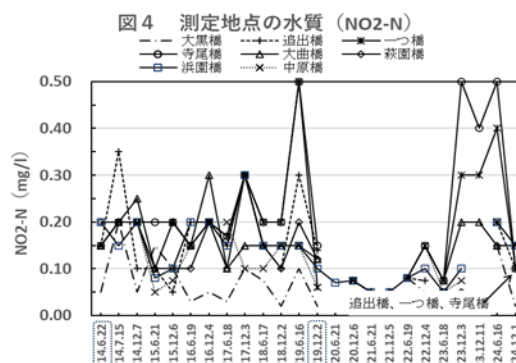
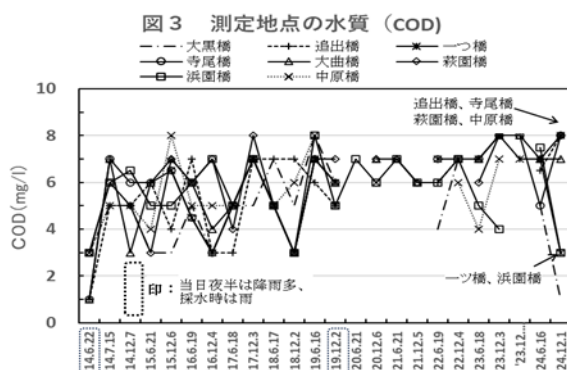
各測定地点の水質値を右に示します。

この結果、'24.12月は以下の事が言えます。

- COD（化学的酸素消費量）は、本年6月の「上流から下流に向かい、上昇⇒低下⇒上昇」の傾向に対し、今回は傾向性が見られず、NO₂-N（亜硝酸態窒素）は、本年6月と同様に上流域から中流域で増加の傾向でした。

- 以上の事から、上流から下流までの流域内の水質傾向が本年6月に対し変化してます。その要因としては次のことが考えられます。

- CODについては、最上流の「大黒橋」以外の、検査地点の水量の少なさによる検査精度の低下や、工事に伴う流路狭隘化による影響が生じたと思われます。
- NO₂-Nは河川周辺の耕作地の土壌排出物の季節性影響が出ていると思われます。



以上の結果を含め、最近10年間の各地点の水質推移（図3、4）は、次の事が伺えます。

- CODは変動を繰り返しながら全体としては一部の箇所を除き、高い水準で、基準（ $\leq 3\text{mg/l}$ 、サケ、アユが棲める）の2倍前後。
- NO₂-Nは変動を繰り返しながら今回の結果は好ましい水準ですが、季節性の影響も考えられますので、継続調査が必要です。

2.2 川の環境状況

調査地点付近の環境状況を目視調査しました。全域でゴミの散在があり、中流域（追出橋～寺尾橋の間）に加え、下流側（大曲橋以降）の河川敷内のゴミの散在量の多さや大きさも目立ちました。なお、川面や川周辺の生き物の少なさにも違和感を覚えました。河川工事は、追出橋～一ツ橋間の右岸拡幅工事中、萩園橋下流側の土除去中、浜園橋の橋掛替え工事中で、流域の多地点での工事が目立ちました。

小出川の水質は多地点で水質の悪化が継続し、小出川の水質が「アユが棲める環境」になるには依然としてほど遠い状況です。今後は水質調査を省力化して、毎年6月に絞り河川環境の調査を継続し、その情報を発信していきます。